

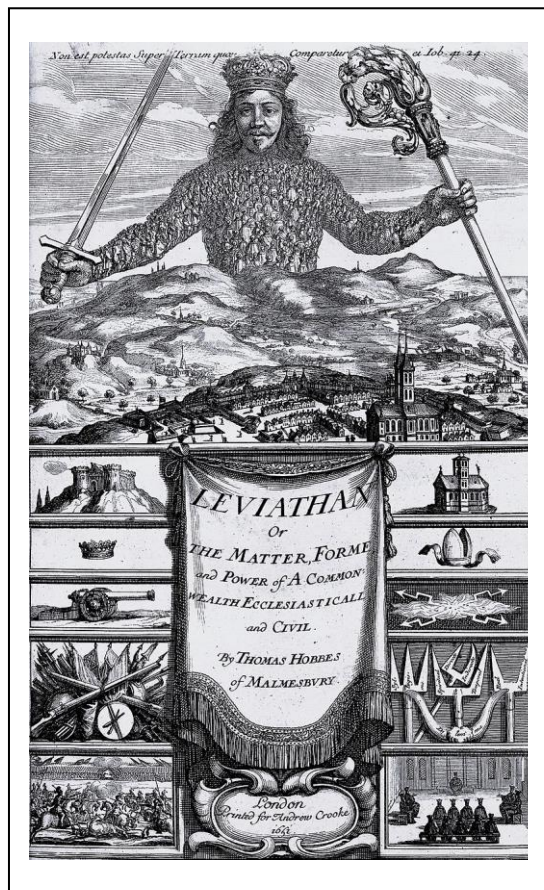
●日時 2023年7月15日(土) 午後2時～4時

●場所 Zoomによるオンライン開催

●講師 芳賀繁浩（福島伝道所牧師）

●主題 『神と王～政教分離について旧約に聞く～』

東京中会ヤスクニ・社会問題委員会では、今年度は、新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら、可能であれば3回の学習会を開催したいと考えております。その第1回目として、Zoomによるオンライン開催の形で学習会を行います。主題は、昨今の憲法を巡る状況を踏まえ、政教分離の原則について、その淵源の一つとされる聖書から、「王」の位置づけについて学びたいと思います。



「リヴァイアサン」初版表紙 最上部にヨブ記の引用。怪物は無数の人間によって形作られている。下部左右に聖俗両権のシンボル。

～講師から～

近代憲法理論の土台となった「社会契約論」の祖とされるトマス・ホブズは、主著『リヴァイアサン あるいは教会的及び市民的なコモンウェルスの素材、形体、及び権力』のタイトルを、旧約のヨブ記（40:25～41:26）に登場する《神の》地上最強の《被造物》から取りました。

それに続くジョン・ロックも『統治2論』と並んで『キリスト教の合理性』を著しているように、近代憲法理論はその根を深く聖書に下ろしています。

「王が神」でありその権威が絶対であることが当然であった古代の社会において、「神が王」（サムエル記上8章）であること、それゆえ王の力は絶対ではないこと（たとえば「ナボテのぶどう畑」列王記上21章）、だからこそ王の権力は神の戒めである律法と神の意志を伝える預言者によって制限されコントロールされるべきこと（たとえばアモス書7章）を主張する聖書は、ギリシャの哲学やローマの法学と共に、「実質的」に近代憲法の精神を支えています。

この憲法の「源泉」に汲みたいと思います。

●参加を希望される方は、下記のメールアドレスに「氏名」と「教会名」をお知らせください。

Zoomのリンクをお送りいたします。haga-s@orion.ocn.ne.jp

送信後3日経っても返信のない場合には、090-7728-2365(芳賀)までご連絡ください。

●問い合わせ:東京中会ヤスクニ・社会問題委員会(委員長 03-5969-8245、書記 042-376-9514)